

Hello, from
Around the World

ALT通信

白河で活躍するALT（外国語指導助手）を紹介！



テイラー・マーリー先生
(アメリカ合衆国・ニューメキシコ州)

本庁舎学校教育課 内2365

白河のきれいな景色を求めて

みなさんはじめまして！私は今年の8月に、アメリカ合衆国ニューメキシコ州のアルバカーキから来ました。この街には、毎年秋に約300機の熱気球が空を彩る祭りがあります。また、グリーンチリという香辛料を使った料理も有名で、アイスにも入っています！

私の趣味はハイキングや、フットサルなどのスポーツをすることで、長距離走の経験もあります。日本の城にも興味があり、姫路城や大阪城なども訪れました。

休日には小峰城や白河関、南湖公園を巡りましたが、南湖だんごがとてもおいしくて感動しました！写真を撮ることも好きなので、白河の美しい景色をもっと撮影し

たいと思います。お気に入りの風景は阿武隈川で、来年の白河提灯まつりが今から待ち遠しいです。皆さんどうぞよろしくお願いいたします。(次回に続く)



▲マーリー先生が撮影した阿武隈川

英語で一言！

Don't wait for it, go for it!
「待つよりも、自分で頑張ろう！」

シリーズで学ぶ

白河歴史人物伝

Vol.19

定信に見出された銅版画の達人

亜欧堂田善

(1748~1822)

田善は延享5年(1748)、須賀川(当時は白河藩領内)の染物屋の次男として生まれました。本名は永田善吉とい、氏名を略して田善と名乗っています。

若い頃から絵師を目指し、15歳の時には須賀川の白山寺に絵馬を描いて奉納したことが分かつています。天明5年(1785)には伊勢参りの際に伊勢寂照寺の画僧・月僊に入門しました。

《銅版画技術を研究》

寛政6年(1794)、白河藩主松平定信は須賀川で田善の描いた屏風に目を留めました。定信は田善を取り立てて江戸に出仕させ、谷文晁に入門させるとともに、洋書に用いられている腐蝕銅版画(エッチング)の制作技術を研究させました。「亜欧堂」の名は、亜細亜と欧羅巴を股にかける意味で、定信が与えたものと言われます。

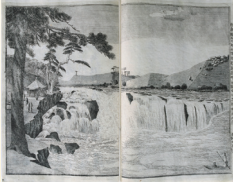
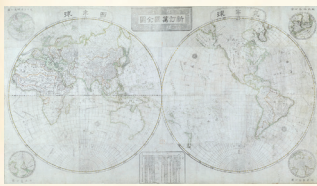
文化2年(1805)、蘭学者の宇田川玄真が西洋の医学書を翻訳し、田善の銅版画によって挿図52枚を付した『医

範提綱』が出版され、田善の精確な銅版画が賞賛されました。また、幕府天文方の高橋景保のもと制作された『新訂万国全図』は日本初の銅版画による世界地図で、田善の高い技術が遺憾なく発揮されています。

他にも、各地の風景を銅版画で描いたり、また西洋の遠近法や陰影表現を取り入れた洋風画の作品を残しています。中でも、芭蕉ゆかりの玉川村の名所乙字ヶ滝(大隈滝)を描いた銅版画は、写実的かつ極めて精密な銅版画技術によっており、田善の代表作といえます。

《須賀川へ帰郷》

66歳で郷里須賀川へ戻り、その後は依頼を受けて日本画の作品を描いたり、地元の名産品として銅版画で模様を付けた工芸品(煙草入れ、帽子など)の製作に関わります。文政5年(1822)、田善は75歳で亡くなりました。



▶陸奥国石川郡大隈芭蕉翁碑之図(須賀川市立博物館蔵)

▶新訂万国全図(須賀川市立博物館蔵)
文化財課 ☎2310